



特徴

冷涼な気候を好み、栽培適温は15～22℃、生育の前半は低温に非常に強くマイナス5℃ぐらいに下がっても枯死するようなことはありませんが、結球期に入ると凍害を受けやすいです。
暑さには弱く、27℃以上になると正常な結球はせず、腐敗株が多くなります。

栽培のポイント

- ①種は薄いので、種まき後の覆土は厚すぎないようにふるいなどを使って薄く丁寧にかけてみましょう。覆土後は板切れを用いて軽く鎮圧すると覆土は均一となります。
- ②追肥は1㎡当たり化成肥料大さじ3杯を植え付け後2～3週間後に行いましょう。2回目も1㎡当たり化成肥料大さじ3杯を中央の葉が巻きはじめたところに施します。株間に肥料をばらまき竹べらや棒で土に混ぜると肥料の効きがよくなります。
- ③12月中下旬になったらビニールで保温被覆しましょう。

10ヶ月

トンネルで保温を開始したら、トンネル内が25℃以上にならないよう頂部に小穴を開けるか、ビニールの端をたくし上げるかして換気をすることが大切です。

3 植えつけ

本葉4～5枚のころ
本畑に植え出す

ベッドの中央がやや高くなるようにていねいにしながら、水はけをよくする

トンネル保温
トンネル頂部に小穴をあけて自然換気する。気温が上がるにつれて穴数を増やしていく。25℃以上にならないように注意

4 管理

肥ざれをさせずに早く葉数を増やし、しまった大きい球に育てる

水やり
乾きやすい畑では半月に1回くらいたっぷりの水をやる

1 苗づくり

育苗箱にすじまきし、覆土して新聞紙で覆う

覆土は種子がやっと見えなくなる程度にふるいで、ごく薄く

種子は5～8mm間隔にまく

本葉1枚のころ
葉がふれ合わないくらい間引く

本葉2枚のころ
苗床へ移植する

少ない本数なら鉢利用が便利

本葉4～5枚の苗に仕上げる

2 畑の準備

<1㎡あたり>
堆肥 5～6にぎり

化成肥料 大さじ5杯

油粕 大さじ5杯

あらかじめ石灰をまき、耕しておいた畑に元肥を施し、20cmぐらいの深さに耕す

5 収穫

玉レタスは頂部を手のひらで軽くおさえてみて球がかたくしまってきたころ

玉レタス正常球

高温障害による変形球

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
播種										●		
定植											●	
収穫			●									